

地域医療と公立病院を守る大運動ニュース

2008年2月5日

発行者 千葉県職労・闘争委員会事務局 小関 厚

長生病院を守ろう！町長など長生シンポに148人

”ぬちど宝は医の魂” (命こそこの世の宝)

2月2日、長生地域の医療をよくする会が茂原市内で「医療を考えるシンポジウム」を首長や医師会役員などをむかえ148人の参加で開きました。

医療は非営利が原則

身近な医療機関重視を

基調講演の高柳氏(いのちとくらし総合研究所)は、沖縄では「ぬちど宝」、人間の一番大切なものは命であると言う。

医療は非営利が原則。日本の医療は世界一だが、国の米国型の医療市場化、予算削減で危機的と指摘。地域医療の再建には、高度医療より地域の診療所や病院を重視すること、そのために医療予算を大幅に増やすべきと強調。

米本茂原市長生郡医師会理事は、地域の医師数が県平均の61%、看護師が55%と深刻。急増する救急患者に医師会で夜間救急診療所などに取り組み地域医療を支えていると報告。

民営化でなく公立病院として

林白子町長は、病院副管理者の立場から、長生病院の民営化の議論があるが、不採算医療を担う公立病院として役割を果たすべきと強調。不足する救急医療の対応に九十九里地域医療センター計画や県のドクターヘリに期待していると表明。

長生病院の村楯看護師は、人員不足と患者の高齢化、重症化の中で過重な看護実態となっていると報告。

山武地域のよくする会の小関氏は、東金病院の整形外科休診、成東病院の縮小・法人化の動きに公立病院を守る運動を展開していると報告。



安心な地域を長生病院の充実で

参加者からの活発な質疑の後、会からは、安心・安全な地域にするため、地元6市町村長に長生病院の医師不足解消・予算増、救急・小児・産婦人科の医療体制確立を求める要望書を届けるなどの運動への協力が呼びかけられました。

心強く元気がでた集い

<参加者の声>

ぬちど宝は医の魂。医療は非営利原則の話、心強かった。

身近な診療所や病院の充実こそ重要との話に共感しました。

高齢者だが意欲がでた集会でした。

